


**ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師の育成
ー協働・省察を促し、教育DXの推進による先導的・革新的教員養成カリキュラムー**



教員養成フラッグシップ大学構想ヒアリング資料

大阪教育大学 教員養成フラッグシップ大学構想

ダイバーシティ大阪の諸課題に応え、学習者の学びに寄り添う教師の育成
 ー協働・省察を促し、教育DXの推進による先導的・革新的教員養成カリキュラムー

3

大阪アドバンスト・ラーニング・センター(OALeC) の設置

全国に類をみない
日本初の計画

日本の将来を見据え、学校教育に求められる変革に、教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題（弱み）や資源（強み）を一堂に集積し、大きな成果を生み出す共創環境

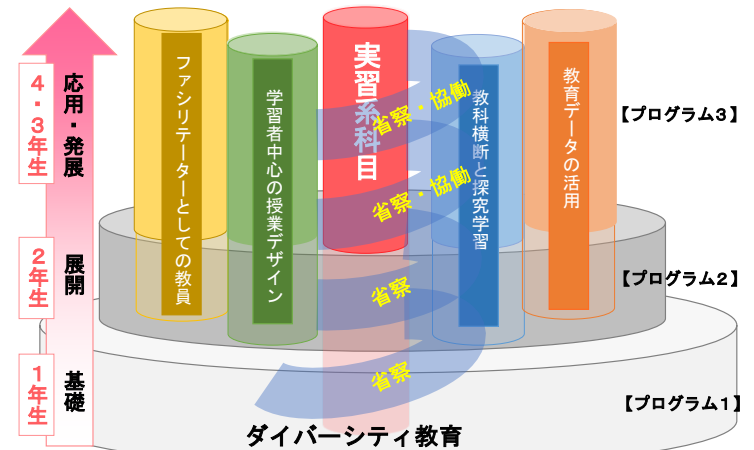


1

先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

学部におけるダイバーシティ教育をベースとしたカリキュラム開発

ダイバーシティ教育をベースとした、4つのテーマ領域と省察科目で構成される先導的・革新的な教員養成カリキュラムの開発



OALeCを活用した教職実践教材「バーチャルスクール」等の開発

OALeCに参画する地元教育委員会、企業との共同により、クラウド上でバーチャルな学校を体験・経験できる教職実践教材「バーチャルスクール」を開発

教職大学院共通5領域必要単位数の弾力措置の活用

【新たな領域】ダイバーシティ理解、多職種協働による組織マネジメント、教育DX・STEAM実践、教育グローバル人材育成（2単位）

教育学部と連合教職大学院の一体的カリキュラム開発

- ✓ 教育実践カースに「6年一貫教員養成プログラム」を導入
 - ✓ 養成・採用・研修を貫く「附属学校教員育成コース（仮称）」を設置
- ⇒ 地元教育委員会との連携による養成・採用を接続したコースに展開

教員育成指標と連動した教員研修プログラム開発

連合教職大学院の授業科目群と統合した仕組を構築

コンピテンシーベース
教員研修

新たな形の大学教員FDを提案

学習観・授業観の転換のための教育研究手法

- ✓ 学生の学び合いをファシリテーションする力量を形成するFD
- ✓ 座学を中心とする知識伝達型から、実践経験型のFDへ

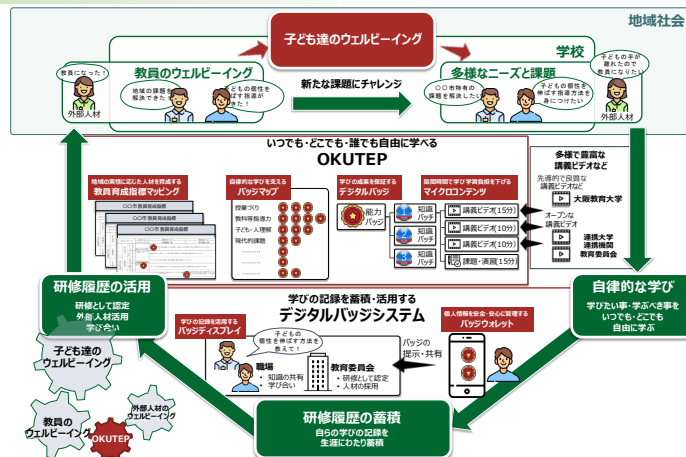
4

全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

大学間連携を通じた展開
 連携開設制度の活用などによる、先導的・革新的な教員養成カリキュラムの展開

学び続ける教員を支えるプラットフォームの構築

- ✓ オープン・エデュケーション・プラットフォームの構築
- ✓ 連携大学、教育委員会、学校現場による相互コンテンツ提供
- ✓ チャットボット（AI）によるコンテンツ推奨機能
- ✓ デジタルバッジによる成果の可視化と証明



2

未来教育共創推進統括本部

本部長/理事
(教育・研究・危機管理担当)
副本部長/副学長
(全学センター統括機構担当)

副学長 (文部科学省担当)
初等教育課程長
教員養成課程長
教育協働学科長

大学院教育学研究科主任
大学院連合教職実践研究科主任
理数情報教育系教員

先導的教員養成推進部

- ダイバーシティ特例科目開発ユニット
- チーム学校モデル構築ユニット
- 学習成果指標開発ユニット
- 教職大学院共通科目開発ユニット
- 英語運用能力向上プログラム推進ユニット
- 学び続ける教員研修プラットフォームユニット
- 教員養成に係わる大学教員FDシステム開発ユニット

大阪アドバンスト・ラーニング・センター
機能強化検討部会
(大阪市との連携組織)

チーム学校実現作業チーム

人材育成機能作業チーム

教育DX推進部

- バーチャルスクール教材開発ユニット

産官学連携推進部

- 産官学連携ファシリテートユニット
- 大阪アドバンスト・ラーニング・センター機能検討ユニット
- シンクタンク機能強化ユニット
- 大阪市教員養成協働研究講座

シンクタンク機能作業チーム

協働研究講座活性化チーム

①

先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

②

学部と大学院の一体的な教員養成カリキュラム

③

大阪アドバンスト・ラーニング・センター(OALeC) の設置

④

全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

①

先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

②

学部と大学院の一体的な教員養成カリキュラム

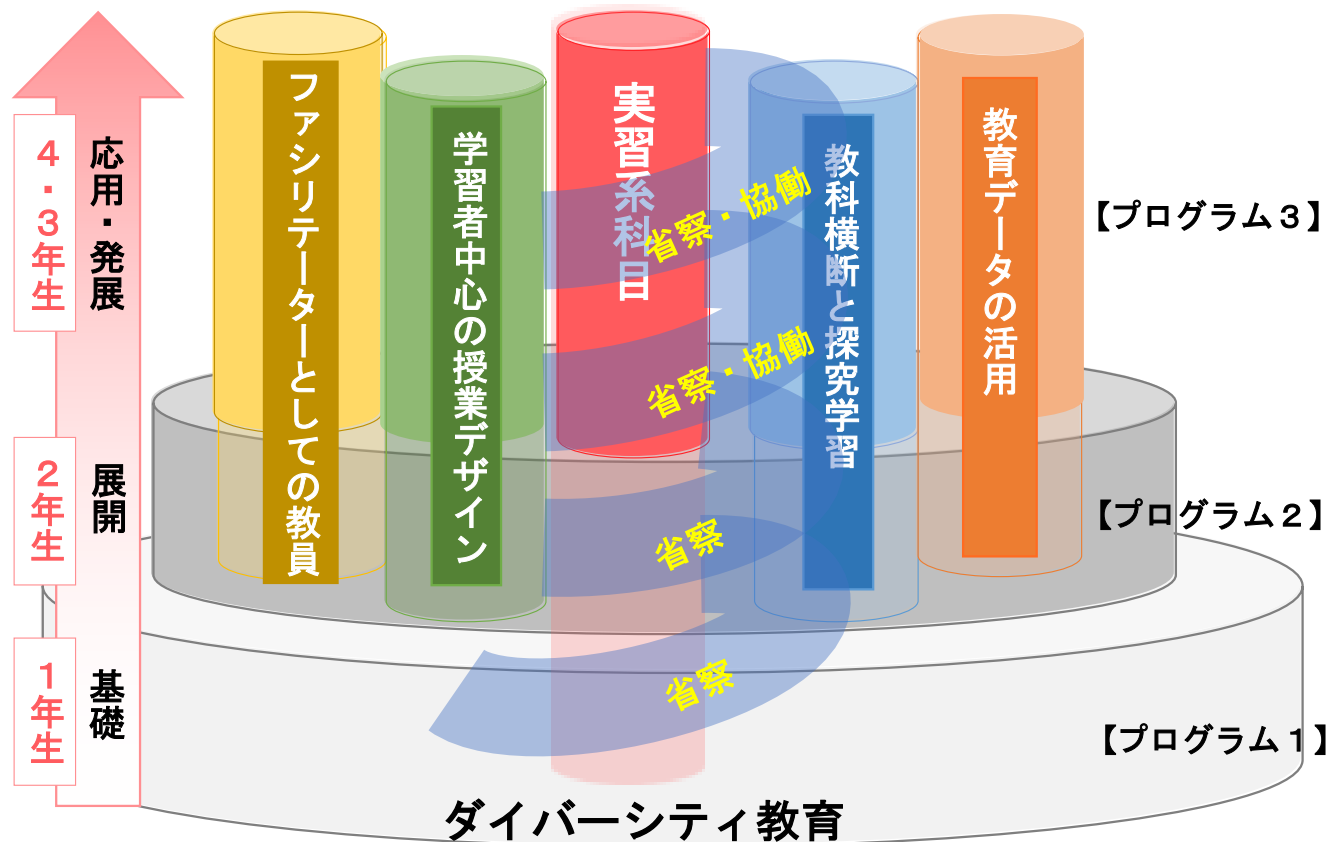
③

大阪アドバンスト・ラーニング・センター(OALeC) の設置

④

全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

ダイバーシティ教育の「基礎」、「展開」、「応用・発展」で構成された3つのプログラムの積み上げと、それを貫く実習系科目、各プログラムと実習系科目をつなぐ省察・協働により、理論と実践の往還を通じてより深い学びを実現



概要

教員養成フラッグシップ指定大学における単位の修得方法に関する特例制度を用いて、「大学が独自に設定する科目」の単位の修得方法において、「指定大学が加える科目」の修得方法を次のように追加する。

フラッグシップ大学指定大学における単位の修得方法に関する特例制度を用いた教職課程

現行			令和6年度以降	小学校教諭1種免許状	
科目名称	単位数		単位数	科目名称	主な内容
教科及び教科の指導法に関する科目	30	▲10	<u>20</u>	教科及び教科の指導法に関する科目	小学校の教科に関する専門的事項に関する科目、教科の指導法科目ともに全10教科各1単位で開講し、 20単位 を履修
教育の基礎的理解に関する科目	10	▲1	<u>9</u>	教育の基礎的理解に関する科目	施行規則による区分単位で各1単位開講としたうえで、教職課程コアカリキュラム対応を行う。
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	10	▲1	<u>9</u>	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	
教育実践に関する科目	7		7	教育実践に関する科目	修得方法の特例外
大学が独自に設定する科目	2		<u>2</u> (12)	大学が独自に設定する科目 (指定大学が加える科目)	小学校の教諭の普通免許状授与の所要資格を得るために必要な「大学が独自に設定する科目」の単位の修得方法において「指定大学が加える科目」の修得方法として 12単位 を必修とする。
合計	59		59	合計	計

フラッグシップ指定科目案

フラッグシップ指定大学が加える科目開講基準案

プログラム1	科目名称案	単位	小中高
	ダイバーシティと教育	1	必修
	現代社会と子どもの権利	1	必修
	多様な子どもとインクルーシブ教育	1	必修
	外国人の子どもとの理解と支援	1	必修
	合計		4
プログラム2	教科横断と探究学習Ⅰ	1	必修
	教育データの活用Ⅰ	1	必修
	ファシリテーターとしての教員Ⅰ	1	必修
	学習者中心の授業デザインⅠ	1	必修
	合計		4
プログラム3	教科横断と探究学習Ⅱ	1	2テーマ2単位 選択必修
	教育データの活用Ⅱ	1	
	ファシリテーターとしての教員Ⅱ	1	
	学習者中心の授業デザインⅡ	1	
	合計		2
省察	教師の学びと成長	1	必修
	教師の職能と専門性	1	必修
	合計		2
	合計		12

コアカリキュラム構成素案

【科目名称：ダイバーシティと教育】

◆全体目標

現代社会におけるダイバーシティの基本理念を理解し、多様性を認め合う共生社会の実現を目指した学校教育のあり方について知見を広げる。

(1) ダイバーシティおよびダイバーシティ教育の基本的理解

一般目標

ダイバーシティおよびダイバーシティ教育の基本理念を理解する。

到達目標

- 1) ダイバーシティの基本理念を理解している。
- 2) ダイバーシティ教育の基本理念および目標を理解している。

(2) ダイバーシティ教育と子どもの多様性理解及び社会的共生（包摂性）

一般目標

ダイバーシティ教育が目指す子どもの多様性及び社会的共生を重視する学校教育の基本的ありようを理解する。

到達目標

- 1) 学校において子どもが見せる多様性の広がりを理解している。
- 2) 多様性を踏まえた社会的共生（包摂性）の基本的なありようを理解している。

◆授業構成

第1回 オリエンテーションと包括的課題設定：現代社会におけるダイバーシティとは？

ー本学が目指す新しい教員養成の理念「ダイバーシティ大阪」

第2回 日常・社会生活におけるダイバーシティ事象の省察

第3回 教育改革の動向とダイバーシティ教育：理念と目標

第4回 ダイバーシティ教育を実現するために求められる教師の資質・能力

第5回 学校教育における子どもの多様性の広がり

ー地域に対応したダイバーシティ教育：大阪の学校における歴史と現在

第6回 学校生活におけるダイバーシティ事象の省察

第7回 社会的共生（包摂性）の可能性と展望

第8回 総括とディスカッション

* 奇数回はオンデマンド授業、偶数回は対面授業。

①

先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

②

学部と大学院の一体的な教員養成カリキュラム

③

大阪アドバンスト・ラーニング・センター(OALeC) の設置

④

全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

【現行】

コース名	入学定員	募集人員 (目安)	主な対象者	入学時必要免許	修了時取得免許	修業 年限	キャンパス
スクールリーダーシップコース	150	30	現職教員 (3年以上)	幼or小or中or高or養	幼or小or中or高or養専	2年	天王寺
援助ニーズ教育実践コース		30	現職教員 or学部卒	幼or小or中or高or養	幼or小or中or高or養専	2年	天王寺
特別支援教育コース		10	現職教員 or学部卒	特支 + 小or中or高	特支専	2年	柏原
教育実践力コース		80	現職教員 or学部卒	小or中or高	小or中or高専	2年	柏原

コース名	科目区分	研究科共通科目		学校実習 科目	コース科目		自由選択 科目	課題研究 科目	計
		必修	選択必修		必修	選択必修			
スクールリーダーシップコース		16	2	10	4	6	4	4	46
援助ニーズ教育実践コース		16	2	10	6	6	2	4	46
教育実践力コース		16	2	10	4	6	4	4	46
特別支援教育コース		16	2	10	10	4	-	4	46



【令和6年度】

コース名	科目区分	研究科共通科目		学校実習 科目	コース 必修科目	自由選択科目	課題研究 科目	計
		必修	選択必修					
大学院連合教職実践研究科		16	4	10	6	6	4	46

共通5領域科目
フラッグシップ大学
特例領域科目
(20単位)

【 現 行 】

科目区分		授業科目名	単位数
共通5領域科目 (必修)	①教育課程の編成及び実施に関する領域	教育課程編成の今日的課題	2
		カリキュラム・マネジメントの理論と実践	2
	②教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開	2
	③生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	2
	④学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	2
⑤学校教育と教員の在り方に関する領域	教師力・学校力・スクールコンプライアンス	2	
研究科共通科目	必修科目	教育研究方法演習	2
		学校安全と危機管理	2
	選択必修科目 1科目2単位 選択必修	人権教育の課題と実践	2
		健康教育の理解と実践	2
		子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	2
		社会的包摂のための諸施設に関する実践的探究	2
		特別ニーズ教育の理論と実践	2
		外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ	2
		外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ	2
		外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ	2
	選択科目	海外の学校改革に学ぶ	2



【令和6年度(予定)】

科目区分		授業科目名	単位数	
共通5領域科目 (必修)	①教育課程の編成及び実施に関する領域	カリキュラムの編成原理とマネジメント	2	
		②教科等の実践的な指導法に関する領域	学習指導の実践的展開	2
	③生徒指導及び教育相談に関する領域	生徒指導と教育相談の実践的課題	2	
	④学級経営及び学校経営に関する領域	学校経営と学級経営の理論と実践	2	
	⑤学校教育と教員の在り方に関する領域	学校安全と人権を核にした教師力・学校力の創造	2	
研究科共通科目	必修科目	教育におけるDXとSTEAMの理論と実践【新設】	2	
		グローバルスタディーズの展開【新設】	2	
		チーム学校の実践的展開【新設】	2	
	選択必修科目 2科目4単位 選択必修	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	子どもの貧困及び児童虐待の理解と教育実践	2
			社会的包摂に関する実践的探究	2
			外国にルーツのある子どもの教育Ⅱ	2
			インクルーシブ教育の理論と実践	2
	選択科目	外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ	外国にルーツのある子どもの教育Ⅰ	2
			外国にルーツのある子どもの教育Ⅲ	2
		インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援【新設】	インクルーシブ教育の実現に向けた子どものアセスメントと支援【新設】	2
			通常学級におけるインクルーシブ教育の実践【新設】	2
			人権教育の課題と実践	2

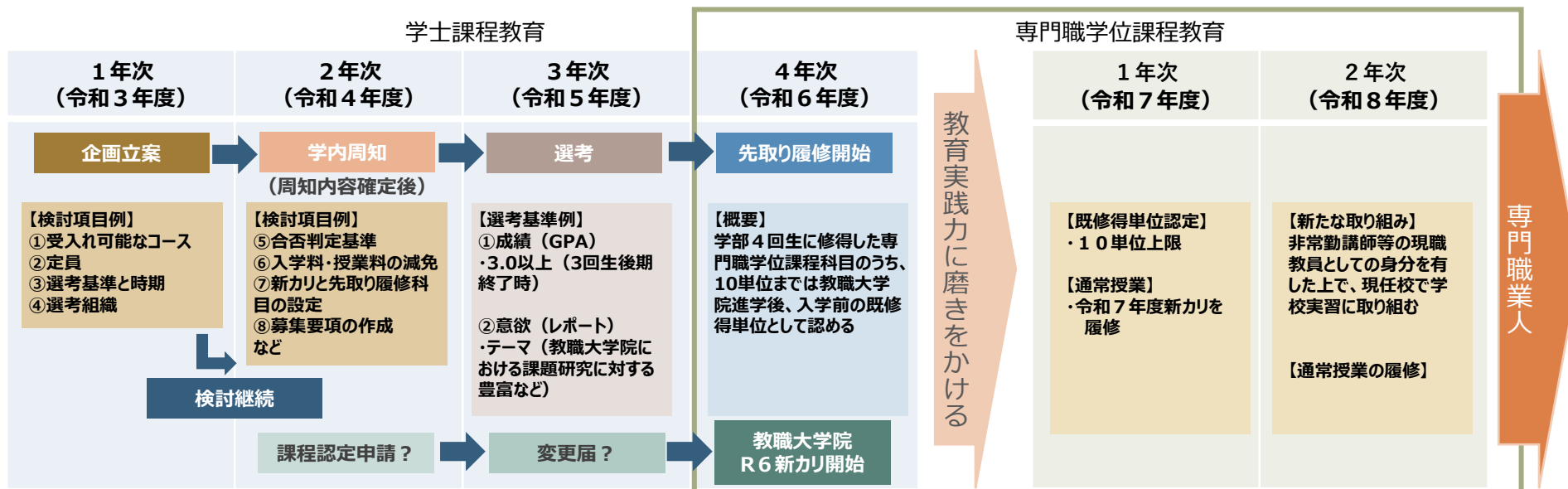
学部と教職大学院との接続プログラムモデル

▶ 学部と教職大学院が接続する教員養成プログラムを展開する。



- 学部段階から教職大学院への進学を見越したカリキュラムを編成する。
- 学部 3 年次時に学内選考を実施（年10名程度）し、4 年次より先取り履修を開始する。
- 学部 4 年次及び大学院 1 年次に講義・演習を中心とした授業を履修する。
- 大学院 2 年次は教員として勤務しながら、指導教員からは実習指導とオンラインも活用した課題研究の指導も受ける。

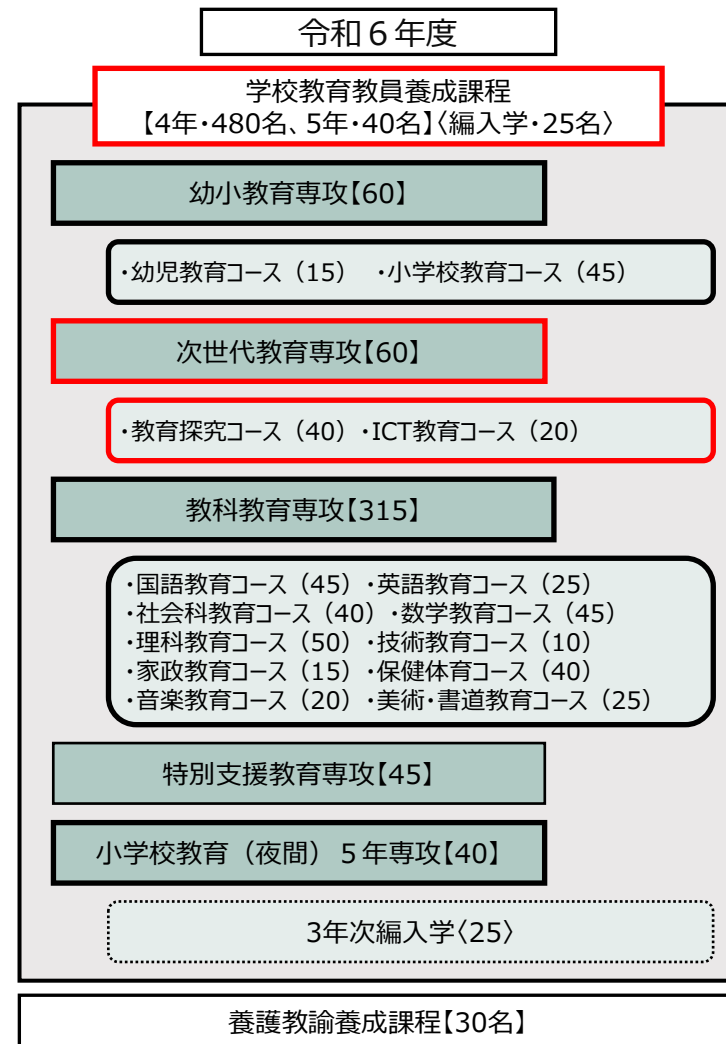
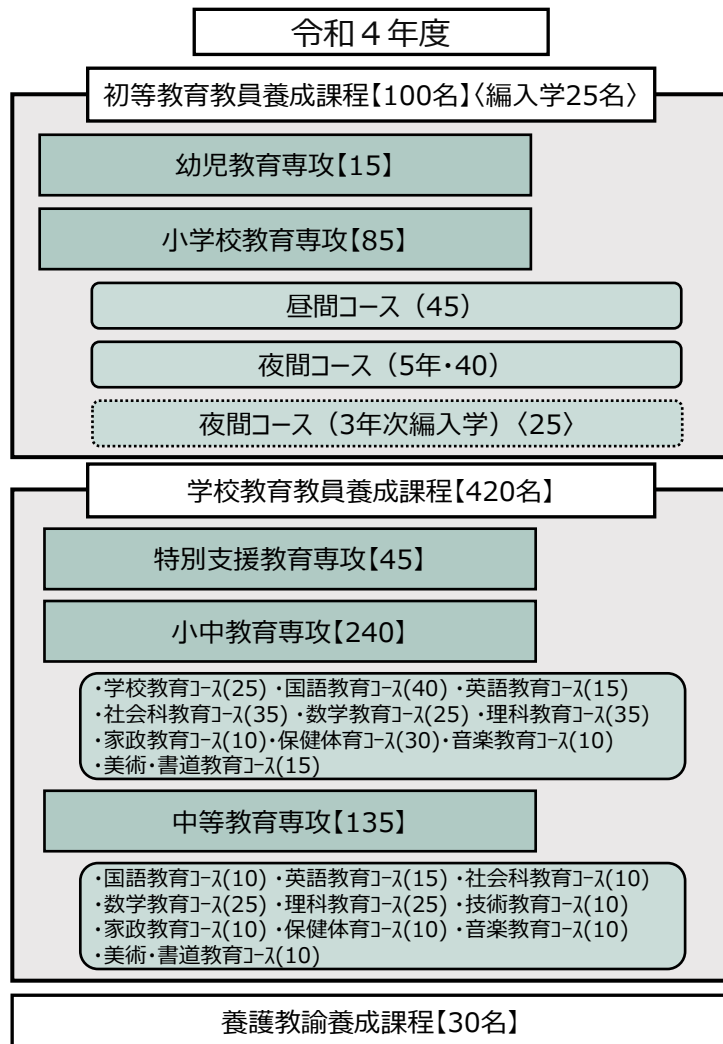
学内検討のロードマップ ◆令和3年度学部入学生の例



令和6年度の教育組織の改組について【教員養成課程】

- 教員養成フラッグシップ大学として、**先導的・革新的な教員養成カリキュラム等を一体的に展開し、学校種を超えて子どもの発達を踏まえた学校教育全体を俯瞰した教師に必要な資質・能力を育成**するべく、**初等教育教員養成課程と学校教育教員養成課程を学校教育教員養成課程に一本化する。**
- **学習者を中心とした個別最適な学びに寄り添う教員養成**のため、次世代教育専攻に**教育探究コースを設置**する。
- **ICT活用指導力の向上及び教育データの利活用力を有する教員養成**のため、次世代教育専攻に**ICT教育コースを設置**する。

記載内容は現在構想中であり、変更となる可能性があります。



令和4年度の主な取組

①

先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

②

学部と大学院の一体的な教員養成カリキュラム

③

大阪アドバンスト・ラーニング・センター(OALeC) の設置

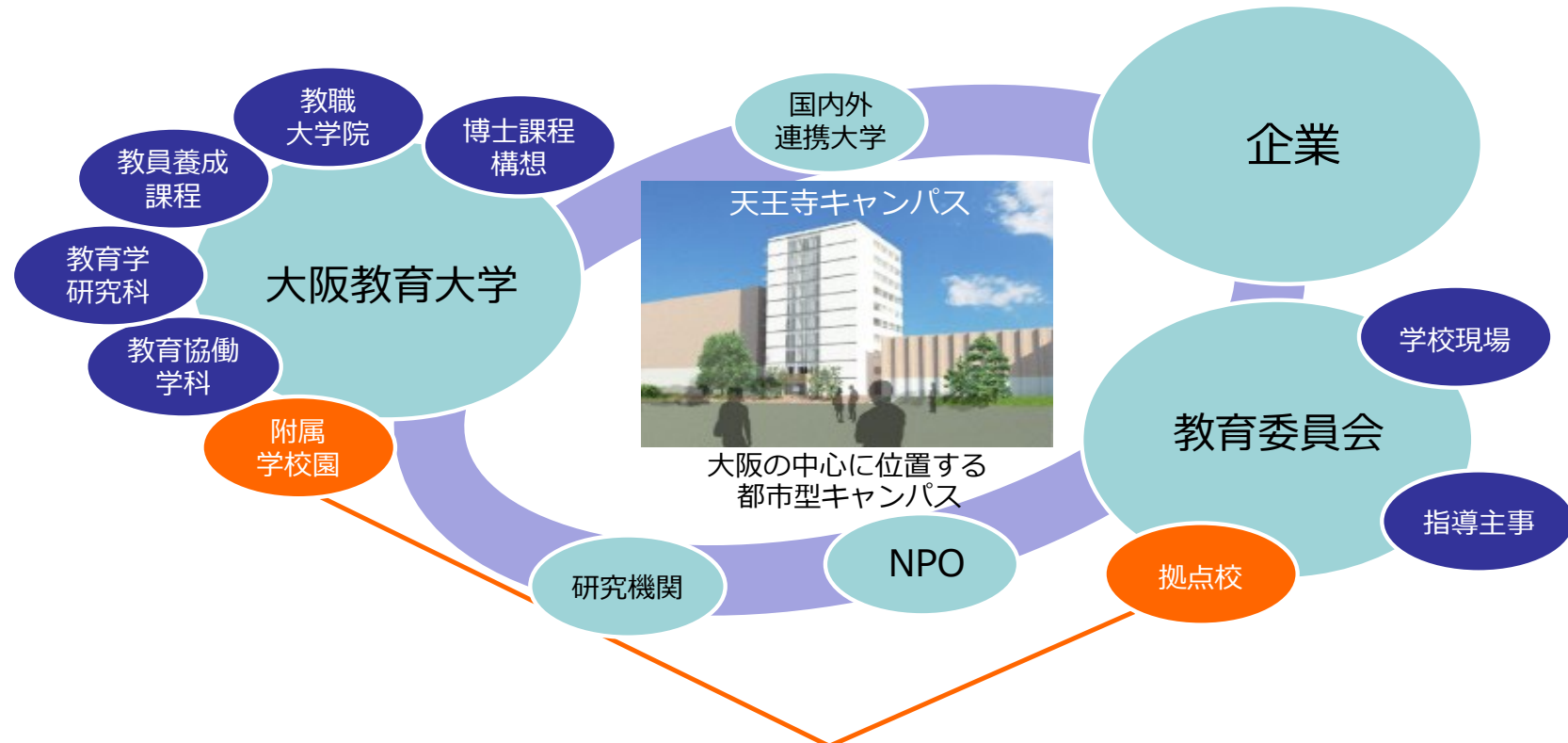
④

全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

大阪アドバンスト・ラーニング・センター（OALeC）を拠点とした 教員養成に係る地域連携プラットフォームの構築（イメージ）

日本の将来を見据え、学校教育に求められる変革に教育委員会・学校現場・行政・産業界・大学等が、それぞれ抱える課題（弱み）や資源（強み）を一同に集積し、大きな成果を生み出す仕組みを構築することを通じて、**大阪から日本の教育を変えていく**。

その目的の実現に向かって一緒に考え、汗をかく**真のベストパートナーシップ**をめざす。



- ### 大阪版チーム学校モデルの構築
- 産学官連携による共同研究、実証研究
 - 協働と省察を促す実習指導
 - 養成・採用・研修の実質化モデル
 - 学部生や大学院生のみならず、大学教員（FD）や企業にとっての学びの場

令和6年春
供用開始

産官学連携により教育人材の養成・研修や教育の高度化をけん引する共創拠点

本学の教育人材養成にかかる教育研究機能、大阪市教育センターの現職教員研修やバックアップ機能、企業やNPO法人の専門的知識や技術が一堂に会する、全国でも類を見ない共創拠点を構築し、教育や教員養成の高度化に資する取組を推進



5階 産官学連携拠点フロア

オープンラボのほか、プレゼンテーションやポスターセッションなどを使用できるスペースやカフェエリアを整備



1・2階 協働学習エリア

チーム学校を担う、さまざまなバックグラウンドをもった人材が学び合うフロア

大阪市教育センター

大阪教育大学

10階
研修室フロア

9階
研修室フロア

8階
事務室フロア

7階
教育ICT推進フロア

6階
シナジースクエア

5階
産官学連携拠点フロア

4階
未来型教室フロア

3階
未来型教室フロア

2階
協働学習エリア

1階
協働学習エリア



オールジェンダートイレ



※外観イメージ図

施設概要

所在地	大阪市天王寺区南河堀町4-88
階数	地上10階
延床面積	約6,000㎡ (全体)
	1階～5階 大学：約3,000㎡
	6階～10階 大阪市：約3,000㎡



3・4階 未来型教室フロア

教師に求められるICTを活用した「新しい専門性」の育成に資するプログラムの開発・効果検証や授業編成、指導案のモデルプランの提案などに取り組む

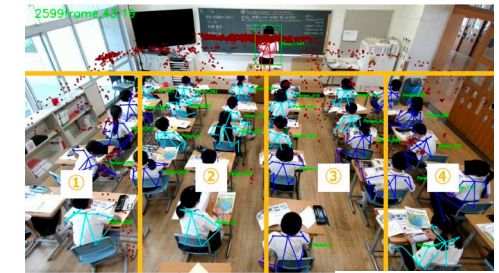
ケニスの客員教員による
「課題探究型STEAM教育」に
おけるプログラミング学習



東京書籍とエプソン販売による
デジタル教科書と電子黒板の体験会



ネーミングライツパートナー東京書籍から
提供されたデジタル教科書体験コーナー



© KONICA MINOLTA

コニカミノルタとの共同研究
「学習行動分析の教育実習への活用」

人材交流

- ◆若手研究員のキャリア形成
- ◆企業の研究力向上

クロスアポイントメント制度 ▶ 2人

客員教員 ▶ 12人

教育研究環境の整備

- ◆機器提供や購入代金の寄附
- ◆ネーミングライツ
- ◆体験会の実施

包括連携協定

教育課題の解決やSDGs、
Society5.0などに対応した
学校・教育現場の実現に
寄与する取組を推進するための
包括的な協定

15社

共同研究プロジェクト

- ◆先導的な教職科目などの開発
- ◆附属・公立学校園での実践・実証

グローバル

先端技術・教育データ活用

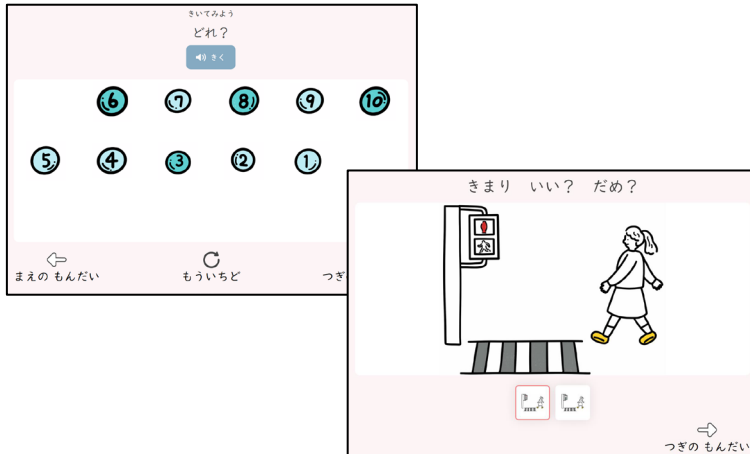
STEAM教育・教科横断

SDGs

ダイバーシティ



Gakkenの客員教員に
よるSDGs学習ゲームの実証



NTTラーニングシステムズと共同開発した
外国人児童向けサバイバル日本語教育アプリ

令和4年度の主な取組

①

先導的・革新的な教員養成プログラム・教職科目の研究・開発

②

学部と大学院の一体的な教員養成カリキュラム

③

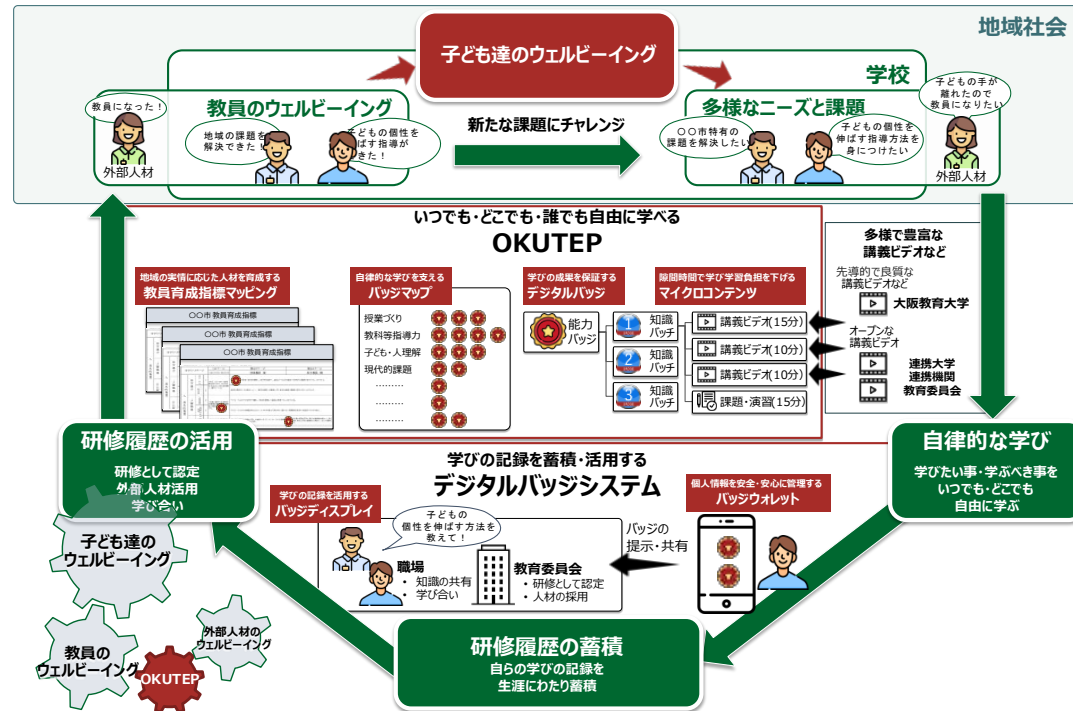
大阪アドバンスト・ラーニング・センター(OALeC) の設置

④

全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開

大阪教育大学

ティーチャーエデュケーションプラットフォーム (OKUTEP)



特徴1 マイクロラーニングを取り入れた研修

10分から15分程度で一つの学習が完結するマイクロラーニングの仕組みを取り入れています。忙しい教員が、通勤・移動中や休憩中などの隙間時間を利用して、学び続けることができます。

特徴2 デジタルバッジによる履修証明

研修を修了すると、大学がデジタルバッジを発行し、提携する教育委員会は、これをもとに認定を行うことを想定しています。教育委員会がデジタルバッジを研修の修了の証として認定する試みは、日本では初めての試みです。

特徴3 オープンエデュケーション

誰でも・いつでも・どこでも・自由に受講できるオープンエデュケーションとして提供し、教員は必要とする内容の研修を必要なときに受講することができます。

特徴4 バッジマップと教員育成指標による自律的な研修

教員が、自身の課題・目的、あるいは地域の課題に応じて、自ら研修を選択し系統的に学習できるよう、デジタルバッジを系統的に並べた「バッジマップ」を公開します。また、提携する教育委員会に対しては、バッジマップを教員育成指標に対応させた「教員育成指標マップ」を提供します。